

(6) 産婦人科（川崎病院）（必修科目）

- ◎ 婦人科研修カリキュラム責任者 : 中田 さくら 婦人科部長
- ◎ 産科研修カリキュラム責任者 : 中田 さくら 産科部長

当科の特徴

当院産婦人科は平成23年実績で年間分娩総数1,125件、手術件数は1,154件と数多く実施している。特に腹腔鏡（手術件数300件）は40年以上の経験、子宮鏡手術（手術件数311件）は日本で最初に実施した。臨床は教科書では得られない自分の体験が重要で、特に産婦人科は分娩・手術等の技術を必要とする科であるが、豊富な症例数によって十分な経験が可能である。

A. 研修目標

1 一般目標

- 1) 産科・婦人科患者を自ら診察し、適切な初期診断を行う積極性と技能を獲得し、専門医に移管するまでの初期診察を行う技術を修得する。
- 2) 女性であり、母性である産科・婦人科患者の実態を理解し、いたわりの心を持って、その診察に当たる態度を身につける。
- 3) 産科・婦人科患者に指導医と共に診察し、一般的診療能力を身に付ける。

2 行動・経験目標

a 産科

- 1) 産科患者の問診を行い、診断に必要な事項を聞き出し、記録できる。
- 2) 産科的一般診察法を行い、所見を正確に記録・評価・指示できる。
- 3) 妊娠の診断法を確実にを行い、その結果を適正に判断できる。
- 4) 妊婦及び褥婦を診察し、与薬し、健康管理について患者に指示できる。
 - 切迫流早産 妊娠悪阻 妊娠高血圧症候群 乳腺炎
 - 貧血、便秘、痔、静脈瘤
- 5) 正常分娩の介助を各期にわたって行うことができ、早期に異常を発見し、専門的処置の必要性を判断し、その実施の依頼または指示が出来る。
 - 胎児仮死 回旋異常 児頭骨盤不適合 前置胎盤
- 6) 異常分娩で救急を要する患者の応急処置を行うと共に、専門的処置の準備を整え又は転送の実施及び指示が出来る。
 - 子癇発作 弛緩出血 頸管裂傷 腔壁血腫
- 7) 分娩直後の新生児の処置及び一般的診察を行うことができる。
- 8) 呼吸循環不全の新生児の応急処置及び蘇生術を行うことが出来、専門医師に移管するまでの指示を与えることが出来る。
- 9) 産科緊急患者の初期診察を行うことが出来る。
 - 流産・早産 重症妊娠高血圧症候群 妊娠後半期および産褥大量出血
- 10) 産科手術の助手を勤められる

帝王切開術 頸管縫縮術

b 婦人科

- 1) 婦人科患者の問診を行い診断に必要な事項を聞き出し、記録できる。
- 2) 婦人科的一般診察法を行い、所見を正確に記録・評価・指示できる。
- 3) 主な婦人科疾患に必要な診断を計画し、実施または指示できる。
- 4) 主な婦人科疾患の治療および教育計画を立てることができる。
 - 子宮筋腫 卵巣嚢腫 子宮頸癌 子宮体癌 卵巣癌
 - 不妊症 卵巣機能不全 子宮外妊娠 骨盤腹膜炎
 - 外陰炎・膣炎 更年期障害 性器脱 骨粗鬆症
- 5) 婦人科緊急患者の初期診察ができる。
 - 性器出血の応急止血法を実施でき、鑑別診断の実施または指示できる。
 - 子宮頸癌 筋腫分娩 過多月経
 - 腹腔内出血の有無を早急かつ正確に診断し応急処置ができる。
 - 子宮外妊娠 卵巣出血
 - 骨盤内腫瘍の茎捻転および破裂を鑑別診断し、応急手術の必要性を判断できる。
 - 卵巣嚢腫茎捻転 卵巣嚢腫破裂
 - 骨盤内の炎症の存在を発見し応急処置ができる。
 - 骨盤内炎症疾患（卵管炎、卵管留膿症）
- 6) 婦人科手術の助手を勤められる。
 - 卵巣嚢腫摘出術 付属器摘除術 筋腫核出術 子宮全摘術
 - 腹腔鏡手術 子宮鏡手術

B. 研修計画

- 1 研修期間 : 4週
- 2 当直 : 週1回

研修医は患者の診察を指導医とともに実施し研修を行う。

3 スケジュール

下記は一例であり研修状態により適宜変更が行われる。

土曜・日曜・祝日は基本的には当直以外はフリーであるが、携帯等で貴重な珍しい症例に対応できる準備をしておく。

曜日	～9時	9～12時	12～17時	17時～
月	病棟回診	外来	病棟、子宮卵管造影、総回診	
火	病棟回診	外来	手術	
水	病棟回診	外来	特殊外来(子宮鏡、手術、癌、超音波)	カンファレンス
木	病棟回診	外来	特殊外来(子宮鏡、骨粗鬆症、不妊症)	
金	病棟回診	外来	手術	
土	自主研修			
日	自主研修			

4 病棟における役割

研修医の受け持ち患者は指導医が主治医である患者、自分が分娩を介助した患者および研修に相当と見なされる患者を受け持ち、朝夕2回の回診を行い、指導医または主治医と相談して診療に関与し研修の実績を上げる。

1) 受け持ち対象患者

a 産科

- 正常分娩 [10例までは見学し以後は指導医のもとに分娩介助]
- 異常分娩 [吸引分娩は見学し、帝王切開は助手になる]
- 切迫流早産
- 妊娠高血圧症候群

その他 当院はNICU/GCUを有し、地域周産期母子医療センター指定を受けている。

母体搬送受入も数多くあり、ハイリスク妊娠・分娩症例も充実している。

b 婦人科

- 子宮筋腫
- 卵巣嚢腫
- 子宮癌
- 卵巣癌

その他 研修対象症例数

1. 当院は年間約60件の新規婦人科悪性腫瘍患者があり、手術療法・放射線療法・化学療法を行っている。
2. 良性疾患の腹式子宮全摘術・筋腫核出術、付属器腫瘍摘出術なども含め年間500件の開腹手術がある。また約40件の膣式手術がある。
3. 腹腔鏡手術に関しては、その実施開始は日本の草分けで40年以上の経験を有し、年間約300件の施行数がある。
4. 子宮鏡手術は日本で最初に開始し、年間約300件の手術件数は国内最多の実施数である。

2) 外来

初診 : 初対面の患者に対して問診技法を活用して患者の問題情報を得る。

再来 : 初診の患者が初期治療によってどのように経過したか知る。

産科 : 行動目標の A-2-a 1), 2), 4) を研修する。

3) カンファレンス

クリニカルカンファレンス : 症例の提示の仕方を学ぶ。

C. 指導体制 (責任者、指導医は別表参照)

中田 さくら 日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医・指導医
臨床細胞学会細胞診専門医
臨床遺伝専門医
日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定医

D. 研修評価

1) 研修医は、経験目標に従って、自己の研修内容を研修医手帳に記録し、退院サマリーを記載し、指導医に提出しフィードバックを受ける。

2) 研修終了時に、当院研修医評価票に基づいて評価を行う。